

オゾン層保護法に基づく 2025年の割当て運用結果等について

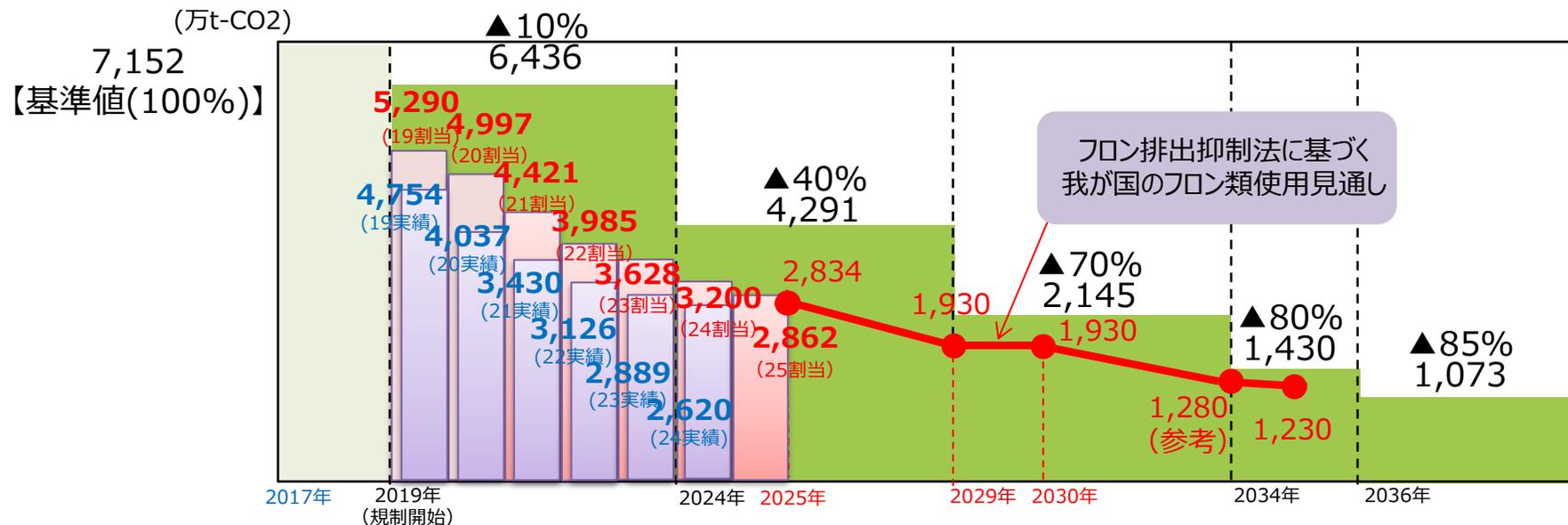
令和8年3月27日

経済産業省 産業保安・安全グループ
化学物質管理課 オゾン層保護等推進室

オゾン層保護法の運用結果

- 2025年消費量の割当ては、**約2,862万t-CO₂**（基本的運用と例外的運用の総計）であり、**日本の基準値4,291万t-CO₂から33%程度の余裕を持って運用**した。
- 基本的運用：約2,829万t-CO₂（製造事業者 8社、輸入事業者 23社）
- 例外的運用：約33万t-CO₂（製造事業者 3社、輸入事業者 14社）

※例外的運用の主な用途は、例外的用途（消火剤、ぜんそく薬噴進剤、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等）



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

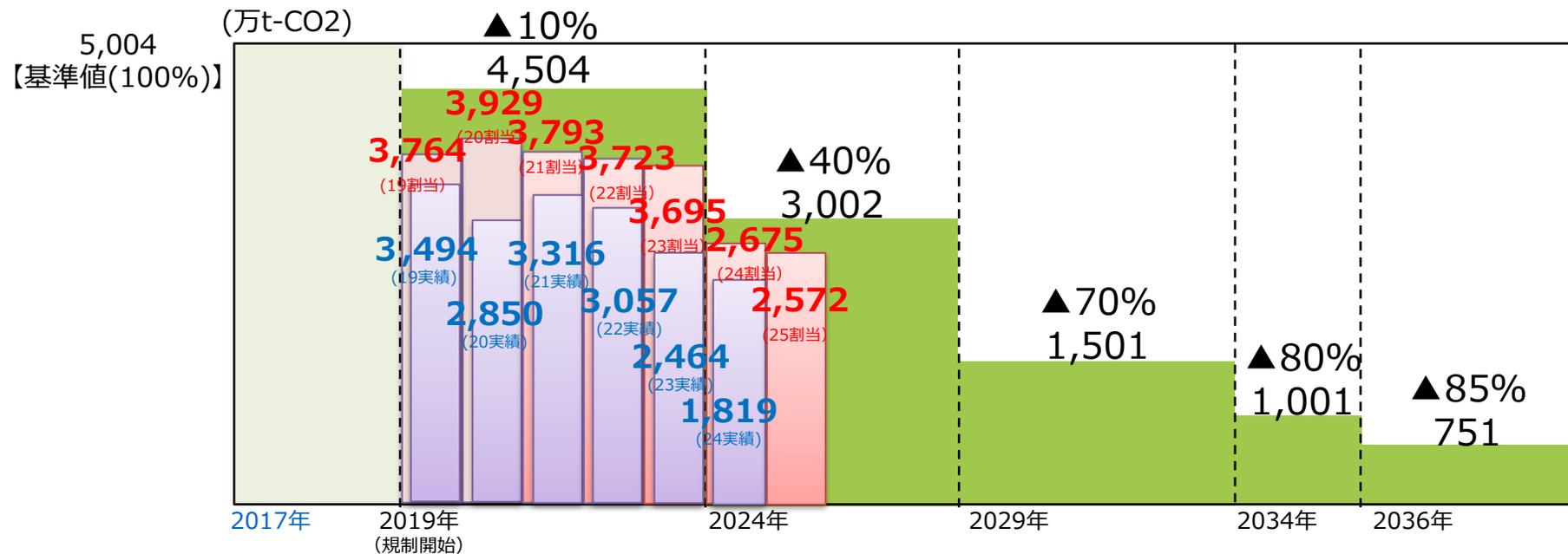
オゾン層保護法の運用結果

- 2025年生産量の割当ては、約2,572万t-CO₂（基本的運用と例外的運用の総計）であり、日本の基準値3,002万t-CO₂から14%程度の余裕をもって運用した。

- 基本的運用：約2,560万t-CO₂（製造事業者 8社）

- 例外的運用：約12万t-CO₂（製造事業者 3社）

※例外的運用の主な用途は、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

(参考) 生産量・輸出量・輸入量・消費量の実績の内訳

- 令和6規制年度（令和6年1月1日～令和6年12月31日）の特定物質及び特定物質代替物質の生産量、輸出量、輸入量、消費量の実績の内訳は以下のとおり。

特定物質	(ODPトン)			
	生産量	輸出量	輸入量	消費量
A I (特定フロン)	0	0	0	0
A II (特定ハロン)	0	0	0	0
B I (その他CFC)	0	0	0	0
B II (四塩化炭素)	0	0	0	0
B III (1,1,1-トリクロロエタン)	0	0	0	0
C I (HCFC)	0	0	0	0
C II (HBFC)	0	0	0	0
C III (ブromoklorometan)	0	0	0	0
E I (臭化メチル)	0	0	0	0

特定物質代替物質	(GWPトン)			
	生産量	輸出量	輸入量	消費量
F I (HFC)	14,857,649	9,530,240	19,847,980	25,175,389
F II (HFC-23)	3,336,470	2,656,475	342,254	1,022,249
合計	18,194,119	12,186,715	20,190,234	26,197,638

※ ODP : オゾン破壊係数 (Ozone Depletion Potential) 、GWP : 地球温暖化係数 (Global Warming Potential)

(参考) 平均販売価格の推移

- 2020年7月以降の平均販売価格（末端価格）の推移全体を見ると、R-134aを除き、急激な高騰は見られないが、今後もモニタリングを継続的に実施していく予定。
- R-32は比較的安定的に推移。
- 混合冷媒（R-410A、R-404A、R-407C）の価格は比較的安定的に推移。

冷媒販売価格指数（2020年7月を1.0としたときの平均販売価格の推移）

